



花見小路通——北は三条通から南は安井北門通まで、祇園町の中央を南北に貫く道である。花見小路通は四条通を境に大きく雰囲気を変える。四条通以北はどこにでもある住宅街と飲み屋街だが、四条通以南は京都の昔ながらの町並みを味わえる道である。

四条通以南の花見小路通には、京格子を嵌め込んだ茶屋や料亭が道沿いに並び、

趣を感じさせる空間が作りだされている。さらに石畳で舗装された道がいつもの風情を感じさせる。表通りには観光客が多いこともあるが、そのような時は路地裏に入るといいだろう。路地裏は人通りも少なく、静かに散策を堪能することができる。

見所としては、京都で最初の禅寺として有名な建仁寺がある。現在では「双龍図」という108畳にも及ぶ壮大な水墨画が公開されている（拝観料500円）。

休日の花見小路通は人も車も多いため、平日に訪れることをおすすめする。また夕方には、茶屋に向かう舞妓さんの姿や店先に輝く提灯を見ることができ、昼間とは違った風情が感じられる。

ほんやりした京都らしい雰囲気を味わいたいときは、花見小路通に足を運んでみてはいかがだろうか。（くじら）



▲道沿いには茶屋や料亭が並び



▲路地裏は静寂に包まれている



▲花見小路の終点「建仁寺」

花見小路の歴史

京都らしさを感じさせる花見小路通だが、その誕生は意外にも最近のことである。明治まで祇園町の南側は建仁寺の境内であり、塔頭が並んでいた。

明治4年、この境内は上知令を受けて没収され、甲部お茶組合が譲り受けることとなる。それを元

につくられた町が現在の祇園町南側である。この新しい町の真ん中を南北に貫くように通されたのが花見小路通であった。その名前の由来は定かではない。しかし、かつては道沿いに見事な桜があり、それにちなんで命名されたともいわれている。

花見小路案内図

